



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成20年(2008年)11月17日 第34号

子どもの気持ち

先月、庄内少年文化館が主催する教育講演会「子どもの気持ち、大人の思い」が行われました。

最近の子どもをどう理解し、どのようにかかわればよいのか、子どもたちの求めているものは何なのか等、具体的な事例も織り交ぜた、わかりやすいお話でした。2時間の講演でしたが、講師の先生の熱のこもったお話にひきつけられてしまいました。その中でも心に強く残った内容は、児童自立支援施設に入所している子どもとのやりとりでした。

その子どもは、今までの自分のつらかった経験を、講師の先生に話してくれたようでした。

それを聴いていた先生が、
「話を聴くことしかできなくて、ごめんね。」
と言われたそうです。すると、その子どもが、
「何か解決をしてほしいとは思っていない。」
「話を聴いてほしいだけ。わかってほしいだけ…。」
と返したそうです。

話を聞いていて、胸の熱くなる思いでした。

人は、話を聴いてもらう体験を積むことで、人の話を聞くことができるようになること。また、自分の話を聴いてくれる人の存在が必要であること。さらに、子どもが自立するときには、必ずつながれる大人が必要であること等、子どもの立場に立ったかかわり方のポイントを聞かせていただきました。

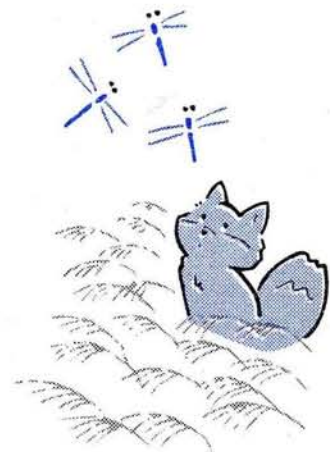
教育相談という業務にかかわっていて、その先生が話された内容とよく似たことに出くわすことがあります。

学級集団に適応できず、問題行動や教師への反発等様々な課題を抱える子どもの相談。散々学校への不平を聴いた後、「先生にどうしてほしいと思っているの？」と子どもに尋ねると、「自分たちの話を聴いてほしい」と一番に訴えていました。

日常、私たちは何か課題があれば、その原因や解決方法を探り行動に移します。学校では、子どもへの指導として行動に移す必要がありますが、中には指導の難しい子どももいて、先生方が苦勞されている現実もあります。今まで自分のことを受けとめて聴いてもらった経験の少ない子どもは、先生の話も素直に聞けないのかもしれませんが。深刻な経験をしてきた子どもたちなら、なおさら・・・。

「話を聴いてほしい」子どもの気持ちも大切にしたいですね。

(大屋)



第54回豊中市小中学校理科展

去る9月17日(水)～21日(日)に第54回豊中市小中学校理科展を教育センターで開催しました。小学校から335作品、中学校から87作品の力作が出品され、5日間で1221人の参観者がありました。このうち、次の皆さんの作品を大阪府学生科学賞に出品しました。

◎小学校の部

作品名	学校名	学年	名前
台所で作る結晶 —キラッと光る調味料—	熊野田小学校	6	八木 里奈子
水と油についての研究	上野小学校	6	大津 菜々子
光の実験 —発光ダイオードを使って—	南桜塚小学校	5	辻田 晴香
地震で起こる液状化現象の研究	東丘小学校	6	江淵 真由
でんぶん大作戦	東豊中小学校	6	岸岡 優季
コケからわかる、身近な環境	刀根山小学校	6	杉村 京香

◎中学校の部

作品名	学校名	学年	名前
「タンポポの研究」 —果実(種子)・冠毛について—	第四中学校 (夜間学級)	全	共同研究
せみの羽化観察	第九中学校	1	衣川 葵
葉のつき方のきまり	第十一中学校	1	木村 友香
自作の紙の強さ調べ	第十一中学校	1	中村 育未
身近な水の浄水実験 ～水道浄水場のシステムの働き～	第十三中学校	1	高木 萌
ゴム変形時の体積の研究	第十四中学校	2	石田 康平

大阪府学生科学賞では、東豊中小学校の岸岡優季さんの作品が最優秀賞である「大阪府教育委員会賞」に輝きました。

また、20日、21日の両日行われた科学教室では、第四中学校自然科学クラブの「熱気球を飛ばそう」や府立北野高校の化学研究部の皆さんの「おもしろ化学実験」などの企画に、多くの小中学生が楽しみながら参加していました。

見事に浮いた熱気球 ▶



今後の教育センター行事

(情報・科学教育関係)

教育センターでは、タッチ・座・サイエンス事業として、市民や子どもたち向けに「サイエンスカフェ」「キッズ科学実験講座」「サイエンスクラブフェスティバル」といった催しを企画しています。今後実施予定の内容をお知らせします。詳細が決まりましたら、教育センターホームページでお知らせしています。

○ サイエンスカフェ (要 申し込み)

11月22日(土) 『夜空の星を撮る』

講師 大阪府教育センター 指導主事 榊井俊彦さん

1月24日(土) 『論理とパラドクスの迷宮への誘い(仮題)』

講師 大阪大学大学院教授 藤原 彰夫 さん

○ キッズ科学実験講座 (要 申し込み 対象 小学校5・6年生)

12月20日(土) 『タコを解剖してみよう』

講師 大阪大学大学院准教授 古屋 秀隆 さん

○ サイエンスクラブフェスティバル (参加していただけるクラブも募集します)

1月31日(土) 豊中市立中学校や、近隣の高校の科学系クラブ等が、参加者と一緒に実験をしたり、さまざまな実験を演示するブースを作ります。

USBメモリ等を介したウイルスにご注意ください

USBメモリ等の外部記憶媒体を介したウイルスが全国的に多発しています。

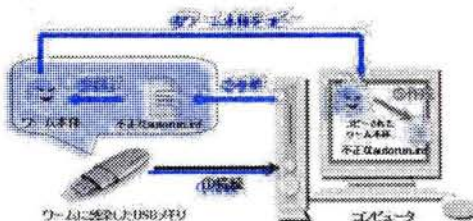
万一、児童・生徒の個人情報の漏出等が起こると、学校や、場合によっては個人の管理責任が問われることとなりますので、十分ご注意ください。

○USBメモリでウイルスが持ち込まれる！

メモリ機能を持つUSB機器（USBメモリ、デジカメ、携帯電話、音楽プレーヤーなどを媒体にしたウイルスの感染が急増中です。

（下のよう感染が拡大します。）

USBメモリがウイルス(ワームとも言う)に感染
→ 感染USBメモリを接続したPCに感染
→ 他の外部メディア、別のPCに感染拡大、
自動的に不正なサイトへアクセス、等



○感染しないために

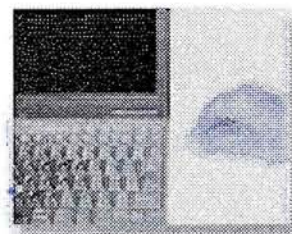
- (1) ネットカフェ等セキュリティ対策が不明なコンピューターではUSBメモリ等は使用しない。
- (2) 自宅PCでもウイルスの侵入を防御！
＜ウイルス対策ソフト導入し、常に最新の状態に＞
＜パソコンやソフトの修正プログラムを適用＞
- (3) USB機器を接続する場合は自動実行させず、必ずウイルスチェック！
- (4) 配付元や作者が不明のファイルは開かない！
(知らない人からのメールに添付されているファイル等)
- (5) アイコンをすぐダブルクリックして開かない！（ウイルスチェック後に開く）



▲リムーバブルディスクをウイルスチェック

○もしウイルスに感染したら

- (1) 感染したPCの電源は切らずにLANケーブルを抜く
(無線LANの場合はスイッチOFFに)
- (2) できるだけ感染源を特定し、拡散を防ぐ
- (3) ウイルス名と状況を教育センターに電話で連絡
- (4) ウイルス対策ソフトでウイルススキャンを実施し、
ウイルスファイルを削除
- (5) 報告書を作成し、教育センターに提出
(報告書の様式例は、教育センター内向けHP
<http://school.toyonaka-osa.ed.jp/educ/> からダウンロードできます。)



▲まず物理的にネットワークから遮断

☆ 児童、生徒の個人情報はノートPC内には保管せず、校務サーバをご利用ください。

～ほどよくゆるみを～

先日、自宅の戸棚の扉が外れていました。よく見ると、複雑な形をした蝶番の、扉側と棚側の部品が外れています。部品同士を噛み合わせ、ドライバーでねじを締める際、しばらくは外れないように「ぎゅっ！」とねじを締めました。「これでよし」と思ったのもつかの間、扉は不格好にゆがんだ状態で閉まりました。部品の噛み合わせ方がまずかったのかな？と調べてみましたが、どうやらそうではありません。さんざんあれこれ試した末に、実はねじを締める力加減が問題であることがわかりました。かた過ぎず、ゆる過ぎず、ほどよくねじをゆるめると、扉は自然な位置に収まりました。躍起になって、イライラしながら格闘した末、ねじをほどよくゆるめることが解決策であったとは・・・。

一生懸命になり過ぎると、つい、力が入り過ぎてしまいます。うまくいかなくて、躍起になればなるほど、努力は空回りし、疲れ果ててしまった…という経験は、だれしもあるのではないのでしょうか。しかし、ふっと力を抜いてやってみたらうまくいった、休憩を挟んでからもう一度トライしてみるとうまくいった、というようなことがしばしばあります。

工学の分野では「あそび」はとても重要な役割を果たします。この「あそび」とは、予測不可能な、人間のちょっとした動きが、機械の誤作動を招いてしまうのを防ぐために、設計上わざと設けられているゆるみやゆとりのことを意味します。「あそび」と聞いて連想されるのは、やはり「遊び」だと思います。遊ぶことで、気持ちにゆとりが生まれ、ほどよい力加減ができるようになることがあります。遊びがあそび（ゆとり）を生む、とでも言えそうです。

余分な力を抜いたり、クールダウンしたりすることで、ものごとがうまく進むことがあります。例えば、学校でのさまざまな活動の中でも、あそび（ゆとり）を持つこと、さらには、遊びの要素をすこし取り入れてみる、というのはどうでしょうか？ちょっとした笑いの要素やおとぼけな感じを取り入れてみることで、余分な「力み」がとれ、ほどよい「ゆるみ」「ゆとり」を持てるようになるかもしれませんね。

(石田)

